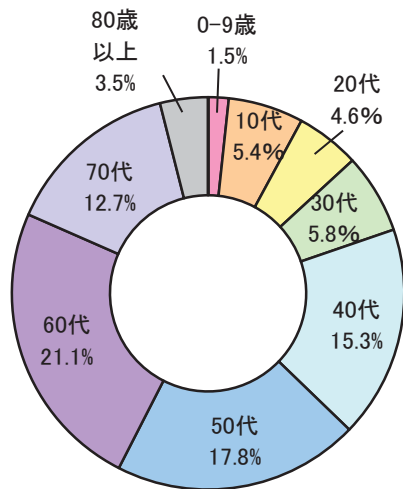


# 日韓国交正常化50周年記念 特別展 「ほほえみの御仏—二つの半跏思惟像—」アンケート集計結果

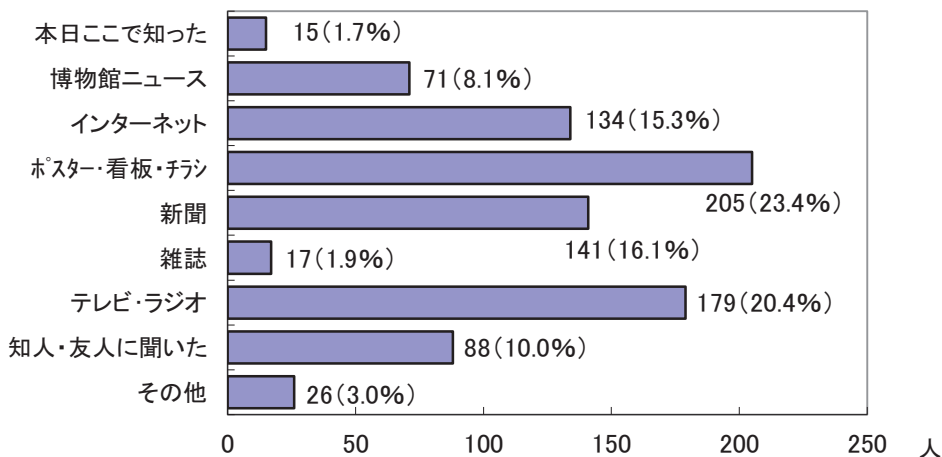
開催期間：平成28年6月21日(火)～7月10日(日)(20日間)

回答者数：608人(総入館者数：78,562人 アンケート回収率：0.77%)

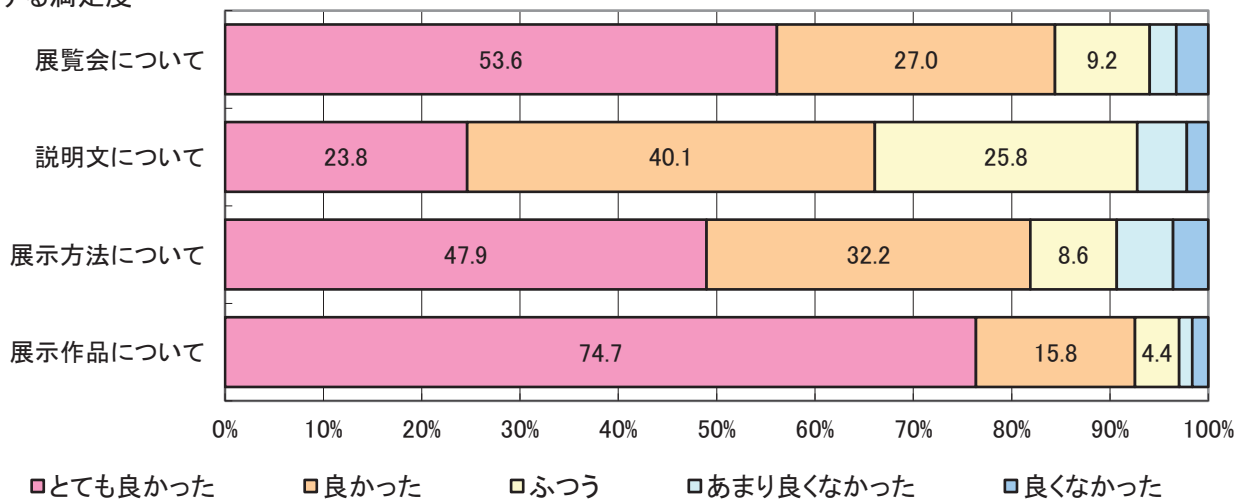
## ①アンケート回答年齢層



## ②認知経路(複数回答)



## ③展示に関する満足度



## ④主な意見・感想

- ・両国の国宝をじっくり見ることができて、当時の日韓関係への造詣も深まり、大変贅沢な時間が過ごせた。
- ・360度から鑑賞でき、2体の材質の違い、表情の違いをじっくり鑑賞できた。
- ・空間を広く取った展示方法がよかった。
- ・図録が二種類選べる形がよいと思った。配布リーフレットも内容が充実していた。
- ・優しいな仏様のお姿を拝観できて幸せな気持ちになった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	2.6	3.1
説明文	4.9	2.1
展示方法	5.6	3.5
展示作品	1.3	1.6

(%)

左足を踏み下げ、右足をその膝の上に組んで坐り、右手を頬に添えて思案する仏像・半跏思惟像は、仏教の母国・インドにはじまり、中国、朝鮮半島、日本へと伝わりました。日本や朝鮮半島では6世紀から8世紀の間に多くの像がつくられ、その中には古代仏教彫刻の傑作といわれる仏像があります。飛鳥時代、斑鳩の里に建立された聖徳太子ゆかりの古刹である奈良県の中宮寺門跡に伝わる国宝の半跏思惟像はその一つで、優しく微笑む顔は誰もが知るどころです。また、韓国を代表する総合博物館である韓国国立中央博物館所蔵の銅製の半跏思惟像は、国宝78号像として広く親しまれています。日本と韓国に同じ姿の優れた仏像が残るのは、両国の古代から続く交流の深さを物語るといえましょう。本展は、日本に先立ち韓国国立中央博物館において特別展「韓日国宝半跏思惟像の出会い」(2016年5月24日～6月12日)として開催されました。日本と韓国の仏像の美を同時に堪能する機会となった本展には、8万人近い方々にご来館いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して80%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「会場が暗く、お顔がよく見えなかった」「手荷物検査が厳しく感じた」などのご意見も寄せられました。今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。